

参考資料 1

R5.1.19 県単位の地域医療
構想調整会議 参考資料1

二次保健医療圏の見直し検討について

令和4年9月1日

広島県健康福祉局医療介護政策課

入院患者の2次医療圏別受療動向(流入割合)

○ 平成29年時点と令和2年時点の流入割合を比較。いずれの圏域においても大きな変化はみられない。 (レセプト算定件数による流入割合)

		→加入者二次医療圏																				
		広島医療圏			広島西医療圏			呉医療圏			広島中央医療圏			尾三医療圏			福山・府中医療圏			備北医療圏		
		H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29
↓医療機関二次医療圏	広島医療圏	91.55%	91.56%	0.01%	3.18%	3.43%	0.25%	2.31%	2.26%	-0.05%	1.11%	1.05%	-0.05%	0.42%	0.36%	-0.05%	0.15%	0.15%	0.00%	1.29%	1.18%	-0.11%
	広島西医療圏	24.96%	24.85%	-0.12%	70.57%	70.63%	0.06%	1.78%	1.78%	0.00%	0.84%	1.01%	0.18%	0.93%	0.79%	-0.14%	0.41%	0.53%	0.13%	0.50%	0.41%	-0.10%
	呉医療圏	3.64%	4.47%	0.83%	0.17%	0.08%	-0.09%	92.20%	91.41%	-0.79%	3.61%	3.42%	-0.19%	0.27%	0.39%	0.12%	0.07%	0.14%	0.07%	0.04%	0.09%	0.05%
	広島中央医療圏	7.22%	7.97%	0.74%	0.46%	0.44%	-0.02%	9.22%	9.07%	-0.15%	78.10%	77.99%	-0.10%	3.58%	3.15%	-0.43%	0.82%	0.67%	-0.14%	0.60%	0.71%	0.10%
	尾三医療圏	0.40%	0.46%	0.06%	0.00%	0.01%	0.00%	0.18%	0.16%	-0.02%	3.80%	3.17%	-0.62%	91.48%	92.06%	0.58%	3.65%	3.72%	0.06%	0.49%	0.43%	-0.06%
	福山・府中医療圏	0.13%	0.14%	0.02%	0.00%	0.01%	0.01%	0.04%	0.01%	-0.03%	0.12%	0.10%	-0.02%	3.82%	4.53%	0.70%	95.15%	94.50%	-0.65%	0.74%	0.71%	-0.02%
	備北医療圏	4.66%	5.98%	1.32%	0.15%	0.24%	0.09%	0.20%	0.50%	0.29%	0.45%	0.53%	0.09%	1.65%	1.75%	0.10%	2.23%	2.56%	0.33%	90.66%	88.44%	-2.22%

(広島県医療・介護・保健情報総合分析システムによる広島県分析)

令和4年7月29日
 広島県医療審議会保健医療計画部会
 資料1-2参考資料

入院患者の2次医療圏別受療動向(流出割合)

○ 平成29年時点と令和2年時点の流出割合を比較。いずれの圏域においても大きな変化はみられない。

(レセプト算定件数による流出割合)

		→医療機関二次医療圏																							
		広島医療圏			広島西医療圏			呉医療圏			広島中央医療圏			尾三医療圏			福山・府中医療圏			備北医療圏			県外		
		H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29	H29	R2	R2-H29
↓ 加入者 二次医療圏	広島医療圏	91.26%	90.78%	-0.48%	4.06%	4.05%	-0.01%	0.93%	1.14%	0.21%	1.67%	1.82%	0.15%	0.13%	0.15%	0.01%	0.06%	0.07%	0.01%	0.76%	0.97%	0.21%	1.12%	1.02%	-0.10%
	広島西医療圏	20.81%	22.03%	1.22%	75.23%	74.45%	-0.78%	0.29%	0.13%	-0.16%	0.70%	0.65%	-0.05%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.03%	0.02%	0.16%	0.25%	0.09%	2.79%	2.45%	-0.35%
	呉医療圏	8.00%	7.92%	-0.08%	1.01%	1.02%	0.02%	82.14%	82.37%	0.23%	7.42%	7.32%	-0.11%	0.21%	0.18%	-0.03%	0.07%	0.02%	-0.05%	0.12%	0.29%	0.17%	1.02%	0.88%	-0.14%
	広島中央医療圏	5.06%	4.93%	-0.12%	0.62%	0.78%	0.16%	4.24%	4.11%	-0.13%	82.87%	84.01%	1.13%	5.80%	4.79%	-1.01%	0.25%	0.22%	-0.03%	0.34%	0.41%	0.07%	0.82%	0.75%	-0.07%
	尾三医療圏	1.20%	1.07%	-0.13%	0.44%	0.38%	-0.06%	0.20%	0.29%	0.10%	2.40%	2.13%	-0.26%	88.11%	87.44%	-0.67%	5.21%	6.41%	1.20%	0.78%	0.85%	0.07%	1.67%	1.43%	-0.24%
	福山・府中医療圏	0.30%	0.30%	0.00%	0.14%	0.18%	0.04%	0.04%	0.07%	0.04%	0.39%	0.32%	-0.07%	2.53%	2.46%	-0.07%	93.08%	93.19%	0.10%	0.76%	0.86%	0.10%	2.76%	2.62%	-0.14%
	備北医療圏	7.56%	7.10%	-0.46%	0.48%	0.40%	-0.08%	0.06%	0.15%	0.09%	0.82%	0.98%	0.16%	0.95%	0.82%	-0.12%	2.03%	2.06%	0.02%	86.99%	87.41%	0.42%	1.12%	1.09%	-0.03%

(広島県医療・介護・保健情報総合分析システムによる広島県分析)

令和4年7月29日
 広島県医療審議会保健医療計画部会
 資料1-2参考資料

二次保健医療圏のシミュレーション

○ 二次保健医療圏に対する多様な意見を踏まえ、例として4パターンのシミュレーションを行った。

パターン①（現行）

医療圏の数 7 圏域



パターン②

医療圏の数 3 圏域

- 広島+広島西+呉+広島中央
- 尾三+福山・府中
- 備北



パターン③

医療圏の数 4 圏域

- 広島+広島西
- 呉+広島中央
- 尾三+福山・府中
- 備北



パターン④

医療圏の数 6 圏域

- 広島+広島西
- 呉
- 広島中央
- 尾三
- 福山・府中
- 備北



二次保健医療圏シミュレーションの比較

	パターン1 現行(7医療圏)	パターン2 3医療圏に統合	パターン3 4医療圏に統合	パターン4 広島圏域と 広島西圏域を統合
概要	現行の7医療圏においては、見直し3要件をすべて満たす医療圏はみられない。	統合により他の圏域との患者の流出は減少するが、広島市を含む圏域が県の人口の約7割を占めることになる。	統合により他の圏域との患者の流出は減少する。	統合により患者の流出は減少するが統合後の圏域が県の人口の半数以上を占めることになる。
広島	人口 : 1367千人 流入率: 8.4% 流出率: 9.2%	人口 : 1,972千人 ↑ 流入率: 1.9% ↓ 流出率: 2.6% ↓	人口 : 1,507千人 ↑ 流入率: 4.9% ↓ 流出率: 4.9% ↓	パターン3と同じ
広島西	人口 : 140千人 流入率: 29.4% 流出率: 25.5%			
呉	人口 : 237千人 流入率: 8.6% 流出率: 17.6%		人口 : 464千人 ↑ 流入率: 8.8% ↓ 流出率: 11.0% ↓	
広島中央	人口 : 228千人 流入率: 22.0% 流出率: 16.0%			
尾三	人口 : 237千人 流入率: 7.9% 流出率: 12.6%	人口 : 744千人 ↑ 流入率: 2.3% ↓ 流出率: 5.1% ↓	パターン2と同じ	パターン1と同じ
福山・府中	人口 : 507千人 流入率: 5.5% 流出率: 6.8%			
備北	人口 : 84千人 流入率: 11.6% 流出率: 12.6%	パターン1と同じ	パターン1と同じ	

二次保健医療圏シミュレーションの比較

見直しの視点	パターン1 現行(7医療圏)	パターン2 3医療圏に統合	パターン3 4医療圏に統合	パターン4 広島圏域と 広島西圏域を統合
一般の入院医療をなるべく身近な地域で対応できる範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・二次医療圏内で一般の入院医療は概ね完結している。 ・流入率・流出率ともに前回策定時からほとんど変化はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次医療圏を広域化することで、圏域内の完結率は上昇する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パターン②より圏域内完結率は下がるものの、現行の二次医療圏よりは上昇する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島圏域と広島西圏域を統合することで、圏域内の完結率は上昇する。
拠点病院で医療需要をカバーできる範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の9割以上は、二次医療圏内の拠点病院に60分以内にアクセスできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行二次医療圏よりアクセスに時間を要する県民が増加するものの、8割以上が二次医療圏内の拠点病院に60分以内にアクセスできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行二次医療圏よりアクセスに時間を要する県民が増加するものの、8割以上が二次医療圏内の拠点病院に60分以内にアクセスできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合によって拠点病院へのアクセスには大きな変化は生じない。

まとめ

- 現行の2次医療圏(7圏域)について、国の見直し基準であるいわゆる「トリプル20基準」に該当する圏域はなく、流入・流出率についても前回計画策定時から大きな変化はない。
- 基幹病院の受療動向については、圏域内患者が大半を占めており、アクセスでは、すべての圏域において自圏域の基幹病院までの60分以内カバー率(有料道路使用)が95%以上となっている。
- 2035年時点で4圏域の人口が20万人未満となり、かつ、医療人材の確保や働き方改革を経た医療機関の状況を踏まえると、第9次保健医療計画策定時には圏域の見直しをすることが妥当ではないか。
- 次期(第8次)保健医療計画においても将来的な圏域のあり方を見据え、医療資源の効率的な配分が求められる。